

<認知症対応型共同生活介護用>

<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	10
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	4
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	1
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	7
1. その人らしい暮らしの支援	5
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	23

事業所番号	1472601317
法人名	特定非営利活動法人シオン相模原
事業所名	グループホームシオン相模原
訪問調査日	令和4年7月20日
評価確定日	令和4年9月12日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は23項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和 4 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472601317	事業の開始年月日	平成12年12月1日
		指定年月日	令和2年12月1日
法人名	特定非営利活動法人シオン相模原		
事業所名	グループホームシオン相模原		
所在地	(252-0137) 神奈川県相模原市緑区二本松4-8-7		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	令和4年7月13日	評価結果 市町村受理日	令和4年9月14日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

キリスト教を土台としたホームである。 健康保持に、ご近所体操を継続している。 午前中の日光浴を楽しめるよう、花や草木、野菜を庭で育てている。 社会性の継続の為、外出・行事を出来るよう願っている。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和4年7月20日	評価機関 評価決定日	令和4年9月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

- この事業所はNPO法人シオン相模原の運営です。同法人は障がい者支援事業、保育事業、介護事業を展開しており、障がい者支援事業では「障がい者就労継続支援B型作業所・障がい者向けグループホーム」、保育事業として「保育園」、介護事業として「高齢者グループホーム」を運営しています。立地はJR横浜線「橋本駅」北口から「三ヶ木行き」のバスに乗り「相原中央」停留所下車して徒歩5分程の住宅街の一角に位置しています。当初建物は2階建ての、有料老人ホームの予定で作られたため各居室は13畳と広くトイレや浴室も完備されています。設備の老朽化に伴い、今年度は水回りの改修工事が行われ、合わせてリビングや廊下、壁回りなども改修され、以前にも増して、全体が明るくなっています。
- 事業所の理念「私たちは入居者中心に考えます」①キリスト教の愛、よろこび、平安、寛容を基本に支援します。②住み慣れた生活を目指します。③地域との交流を大切にします。に基づいたケアを実践すべく、事務所とリビングに掲示し、常に確認できるようにしています。毎月開催の職員会議では、副理事長が理念についての心構えを説話を通して職員に伝え、日頃の介護から看取りまでのケアサービスに繋げています。
- 地域との交流では、コロナ禍でも近隣の公園で月2回「ご近所体操」を継続し行っています。また近所の方々で作られた「シオン相模原協会」からは新鮮な野菜や果物の差し入れも頂いています。防災訓練など事業所の行事にも協力して頂いたり、良好な関係を継続しています。中断していた中学・高校生の体験学習は、学校からの評判も良く受け入れを今年度から再開する予定です。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームシオン相模原
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者も職員も理念を共有し、理念の実践に向けて取り組んでいる。グループホームと地域の皆様との交流も行っている。利用者それぞれの環境をなるべく変えず、住み慣れたホームで生活が出来るように実際に支援している。	事業所の理念は基督教の教えを基に「私たちは入居者中心に考えます」①基督教の愛、よろこび、平安、寛容を基本に支援します。②住み慣れた生活を目指します。③地域との交流を大切にします。をケアの方針としています。理念は事務所とリビングに掲示し、常に確認できるようにして実践に繋げています。月1回の職員会議には、牧師でもある副理事長が参加して説話を通し理念についての理解を深めています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に2回、ご近所体操を実践し、近所の方に声を掛け参加してもらい、地域支援センターの方にも参加していただき、利用者・職員・地域の皆さんと、日常的に交流している。	コロナ禍でも近隣の公園では月2回「ご近所体操」を継続して行っています。また近所の方々で作られた「シオン相模原協力会」からは新鮮な野菜や果物の差し入れも頂いています。防災訓練など事業所の行事にも協力して頂いたり、良好な関係を継続しています。中断していた中学・高校生の体験学習の受け入れを再開する予定です。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護支援の実践を通して、認知症の人の理解や援助方法を、地域に活かせるよう支援していく。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	月1回の運営推進会議を開催して、行事やサービス内容に関して、報告やご意見を頂いている。ご家族や地域の方々には、イベントによっては声を掛け、気軽に参加出来る様に行っている。地域の皆さんと意見を交換し、サービス向上に活かしたい。	運営推進会議は2ヶ月に2回開催しています。高齢者支援センター職員・民生委員・シオン相模原協力会会長・副会長などの参加を得て、事業所の現状や活動内容・事故などの報告を行い、取り組みに対する意見や提案、地域の行事、防犯状況などについても意見交換を行い、サービスの向上に活かしています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で意見を交換し、助言を頂いたり、グループホームの連絡会発足に関わって頂いている。必要時は、事業所の実情やケアサービスの取組みを伝え、連絡・確認をしながら協力して頂いている。	緑区役所の担当課とは、運営推進会議の議事録や事故報告など直接窓口に出向くことで、協力関係を構築しています。コロナ禍の給付金支給申請では、生活保護受給者の方を含め手続きで家族や後見人と連絡をとり、市や区の担当課へ出向いています。グループホーム連絡会を再開するに当たり担当課と連絡を取っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回職員会議を開き、身体拘束をしないケアの実践をしている。日頃から安全確保し、見守り体制を行っている。ご家族との信頼関係を築き、職員同士で声掛けし合い、安心して暮らしていける環境づくりを心がけている。	身体拘束ゼロ委員会を3ヶ月に1回開催しています。毎月開催の職員会議では、利用者一人ひとりの生活状況を発表し、課題に対する対応方法を統一して情報を共有することで、身体拘束を行わないケアを実践しています。身体拘束廃止のマニュアルが整備され、新人職員に合わせた研修を実施しています。	今後の継続
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で話し合い、虐待防止の徹底に努めている。利用者の状態を把握して対応している。言葉使いで気になることは、お互いに注意し合っている。明るく笑って暮らせる生活環境を整えていきたい。	毎月開催の職員会議では、利用者一人ひとりの日常の状態を発表し、記録に残して職員全員で把握して対応しています。心理的な虐待が無いように言葉遣いなどで気になることは職員がお互いに注意し合っ て対応しています。虐待の防止のマニュアルが整備され、職員会議の中で研修を実施しています。	今後の継続
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、個々の必要性を、関係者との話し合い等を活用して支援を行う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は、グループホームの内容を理解頂くよう努めている。見学希望される方については、一つ一つ丁寧に説明し、質問にも応じている。生活状況や、発生されと思われる事柄に対する対応を事前に話し合い、納得していただいてから、契約を交わしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回の職員会議の中で、利用者・家族それぞれの希望を確認し、現状を把握し、改善していくのは何か等 を話し合い、提案したりしている。	コロナ禍で家族の面会は少なくなっていますが、来訪時や、電話・メール等でも家族の意見や要望を伺っています。3ヶ月毎に発行している「シオン相模原たより」を発行して、行事や日頃の様子が確認できる写真と、今後の予定などを伝えています。頂いた意見や要望は、職員会議で検討し対応しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者の要望等は、それぞれの落ち着いている時間帯に聞き取りして、日常会話の中からも理解するようにしている。ご家族には、面会時に希望などを窺うようにしている。職員は日頃、利用者との関りが多く、よく把握しているので、職員一人一人の意見も聞いている。	毎朝の引継ぎや、毎月の職員会議で職員の意見や提案を聞いています。職員からの提案で居室担当者を決め、担当者が夫々の利用者の意見や要望を聴いたり、居室の整理整頓などより細やかな対応をしています。管理者は、現場の実務も行い職員との話し易い環境で、その都度必要に応じて個別の話し合いも行われ、運営に反映させています。	今後の継続
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう、職場環境に努めたい。 年2回の健康診断を行っている。 個々に合ったりフレッシュ休日（有給休暇）など、職員一人ひとりに合った取得を実施している。	毎月の職員会議には、副理事長も毎回出席して職員の意見や提案を聞いています。有給休暇はほぼ100%全職員が消化しています。日頃から管理者に相談したり職員間で話し合い希望する日に取得しています。職員用の休憩場所は、テレビや冷蔵庫も設置しており、ゆっくり休める個室になっています。	今後の継続
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりに寄り添って、職員個々に合った学習方法で研修を受ける機会の確保や、働きながら職員同士で色々と教え合っている。	新任職員には、先輩職員が数日間付きOJTで介護技術などの研修をしています。その後は職員会議内での内部研修や、職員のレベルに応じた内容の外部研修を管理者からの声掛けで実施しています。資格取得についても、担当職員の都合に合わせた対応で支援しています。	今後の継続
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ禍で実現できていない状況である。同業者との交流はできていないが、職員会議や職員同志では、どうしたらより良いサービスを提供することができるか話し合っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に訪問していただいたり、本人の要望や不安をよく傾聴し、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初に家族と連絡をとり、ご本人を含め話し合いをして、今後もその方に合ったサービス提供に努め、私たちが出来ることを話し合う機会をもって支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に訪問するか、ホームに来ていただく機会を設けて、ご本人やご家族の抱える不安を傾聴し対応している。 ご家族と支援者側との信頼関係が保てるよう関わっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その時の暮らしていた思いや、出来ること、今までの習慣を尊重して、食事や趣味、好きなことなどを聞き取りし、出来ることはしていただくよう支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際には、利用者と家族がゆっくり話せるように配慮している。家族からは以前どのような暮らしをされていたかなどお聞きして、要望などもお聞きする。 グループホームの暮らしの様子もお伝えするようにしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	室内だけでなく、自然に触れ合うために季節の花めぐりや、買い物に同行したり、その時々思い出を思い起こしていただく為に行っている。 利用者によっては、手紙や電話連絡出来る機会を設けている。ご本人が大切にしていた事は大事にしていきたい。	コロナ禍で家族や友人の面会が少なくなっていますが、来訪時には広い居室でゆっくりと話出来るように椅子などを用意しています。馴染みの関係継続のため、希望する美容院への送迎や、年賀状の遣り取り、携帯電話の使用や事業所の電話による遣り取りの支援も行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を見極め、支援をおこなうようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後も、交流が持てるような環境になっており、相談に応じるよう努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いを考慮し、利用者本位に検討している。	入居前の事前面談で本人や家族から利用者の生活歴、既往歴、ADL、趣味、習慣、大切にされてきた物など聴き取り、事業所での暮らし方における希望や意向の把握に努めています。入居後は、居室担当者を主に、職員全員で日常の暮らし方や、発した言葉など検討して、その人らしく暮らせるよう支援しています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴等を考慮し、生活環境が大幅に変わらないように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの過ごし方を把握するように努めている。 車いすの利用者、歩行できる利用者の把握と現状維持に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議で利用者のケアを話し合い、よりよく暮らせるよう利用者、家族と相談し介護計画を作成している。	入居時は、事前面接記録にて暫定介護計画を作成し1～3ヶ月経過をみて、介護計画を作成しています。毎月の職員会議にて利用者全員のモニタリングを行い、介護計画の内容とズレが生じていないか確認しています。短期目標は6ヶ月、長期目標は1年として6ヶ月毎に介護計画の更新をしています。更新時には家族や、後見人へ意見・要望書を添付して郵送しています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の利用者の様子を把握し記録している。職員間で共有し、対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズに、柔軟に対応するよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々の暮らしを支える地域資源を把握し、ご本人が安全で豊かな暮らしが送れるよう支援している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回、受診時にかかりつけ医、利用者とお話し、相談したりして、適切な医療が受けられるよう支援している。	入居時に協力医療機関について説明したのち、本人と家族の希望にて主治医を決めていただいています。現在は全員が協力医療機関の訪問診療を受診しています。契約している看護師が毎週1回訪問し、利用者のバイタルチェックと健康管理を行っています。夜間、緊急時などは、協力医療機関で24時間のオンコール体制が整っています。また、新規入所契約時は1ヶ月毎に3回の健康診断を受診できるようになっています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の際、利用者の体調などを相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入退院の際は、関係医療機関と情報交換（利用者の記録）や相談をし、利用者が安心して治療できるよう支援している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、担当医、家族、後見人と連携し、丁寧に取り組んでいる。	入居時に重度化した場合に於ける指針についての説明し、同意書を取り交わしています。主治医から重度化に於ける終末期の話があった際には、家族・医師・管理者による話し合いの場を設け、その結果看取りの希望があった場合には、看取りの契約を交わして、看取りの介護計画を作成して支援を行っています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生に備えて、応急手当や初期対応について、職員同士で共有している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防、近隣地域と連携し、協力体制を築いている。それぞれの災害を想定し避難訓練を行っている。	防災訓練は、コロナ禍で消防署の立ち合いが2年に1回になっていますが、防災設備点検と自主訓練を合わせて年2回行っています。訓練は、避難誘導や通報、消火訓練を中心に、シオン相模原協会の方々にも参加していただき行っています。備品として各居室にヘルメットを用意しています。食料は米、水など約2～3ヶ月分を準備しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重するよう、言葉かけに注意して対応している。	事業所の基本理念にも「私たちは入居者中心に考えます」と掲げており、どのような場合でも、職員は常に利用者本位の声掛けや対応を心掛けています。職員会議では、間違っ事例など挙げて対応の方法を確認しています。言葉かけ等で利用者の理解が得られない場合などは、管理者が間に入り説明することもあります。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の生活の中で、利用者の自己決定が出来るように、働きかけている。	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの気持ちに沿って、その日を過ごせるように努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけご本人の好きな服を選んで着てもらっている。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に話しかけ、楽しく食事が出来るように努めている。	食材はレシピ付き食材を業者より購入しています。調理は職員が行いますが、利用者には簡単な下拵えや、片付け、食器拭きなど手伝って貰っています。食事形態は、常食・きざみ・超きざみ・ミキサー食の4種類で対応しています。行事の際は、食材業者を止めてお寿司など出前して皆さんで楽しんでいきます。毎年梅ジュースを利用者と一緒に作り水分補充や健康管理に役立っています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事量の摂取と、塩分や水分不足の入居者に対して、補給の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、口の中を清潔に保つため専用スポンジや歯ブラシなどを使い、口臭の原因となる下の汚れなどを考慮し、磨き残しのないよう努めている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、健康状態のチェックも忘れずに見守り、時間の間隔を空けて、排泄の失敗や失禁にならないよう心がけている。	一人ひとりの介護記録で、便や尿を時間ごとにチェックして排泄パターンを把握し、声掛けにてトイレ誘導を行っています。夜間オムツを使用する方が数名いますが、日中は極力オムツを外しトイレ誘導にて、自立に向けた支援をしています。各居室にトイレが設置されているので自立している方は、自分のタイミングで、トイレに行かれています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因は食事量と水分不足、運動不足によるものが多くみられるため、食事、水分摂取、適度な運動を促すなど、便秘にならないよう努める。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	出来る限り、一人ひとり希望に合った入浴ができるよう支援している。	入浴は週2回、午後からを基本としていますが、排泄等で汚れた場合は、その都度入っています。重度化した方や身体の大きい方は、安全のために2人介助での入浴支援を行っています。時には入浴剤を使用したり、ゆず湯や菖蒲湯などの季節の湯も取り入れ、入浴を楽しんでもらえるように支援しています。今年度、風呂場の改修工事が行われ洗い場の床がより安全になっています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、朝の健康チェックや記録などを確認して、必要があれば居室で休んでいただいたり、夜間遅くまで覚醒されている時は、温かい飲み物を摂取していただいたり、また傾聴して休んでいただくよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の確認を怠らず、服薬後も見守りに努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに耳を傾け、何が必要か何をしたいかを考え、コミュニケーションをとり、カラオケ、折り紙、塗り絵などをして頂いたり、童謡や唱歌を歌ったり、時々ゲームをしたり、出来る限りストレスなく過ごせるよう支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍でご家族や地域の人の協力も得られず、移動手段もなく、外出することが出来ない日々の中、天気の良い日に外気浴を促し、庭先の花を眺めながら談笑するなどに努めている。	コロナ禍で例年のような外出が出来ていませんが、公園での「ご近所体操」や、天気の良い日には、庭先の花を眺めながら歌を歌ったりして外気浴をしています。コロナの様子を見ながら大島河原の桜のお花見、津久井湖の花の苑、相模原公園の菖蒲の花の見学などへ出かけたり、今後は、市立博物館やコスモス見学を予定しています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知度が進み、お金の大切さは理解できても管理が出来ないので、ご自分で所持し使うことが出来ない。ご本人から、必要な物、買いたいものがあれば施設長と相談して、一緒に買い物に出かけるなど支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの希望がある時は、電話をかけてあげたり、手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	認知度が進んでいる中で、傾聴や寄り添うことを常に心がけている。 共有空間の温度調整や、入居者にとって不快や混乱を招くような刺激に配慮し、居心地良く過ごせるよう心掛けている。	今年度は水回りの改修工事が行われ、合わせてリビングや廊下、壁回りなど共用部分の壁紙の張り替えも行われ、以前にも増して、全体が明るくリホームされています。リビングの掲示部には、利用者と一緒に作成した作品や、季節感の折紙、書道作品などと外出時の写真を飾っています。天井の照明もLEDに交換され、温度や湿度の管理と、掃除も毎日行い快適な空間が保たれています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士、同じテーブルで昔話を語り合ったりされている。車イス、歩行器の多い共有空間内に困難もあるが、一人ひとりが自由に過ごせるよう心掛けている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や思い出の写真を居室の壁に貼ったり、写真ファイルを作るなど、ご本人の思いをくみとった居室となるよう配慮している。	各居室は全て13畳と広くてゆったりしています。エアコン、クローゼット、防災カーテン、トイレ、ベッドなど設備されています。テレビ、整理ダンス、写真、仏壇など本人の思い出のある物や、使い慣れた物が、夫々好きな位置に置かれています。大きな窓もあり明るく掃除も職員が定期的に行っています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来ることや分かることを活かして、トレイ拭き、食器拭き、テーブル拭き花の水遣りなどを、声掛けをしながら出来るように支援している。		

目 標 達 成 計 画

事業所 グループホーム シオン相模原

作成日 令和4年7月20日

〔目標達成計画〕

優 先 順 位	項 目 番 号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
	41	食事介助が必要な入居者の食事量や、水分補給時に誤嚥の可能性はある。	誤嚥をさせないようにする	急いで食事をさせることがないように、舌を刺激しながらゆっくりと一口ずつ摂取して頂き、呑み込みが終わるのを確認してから召し上がって頂く。	一年
	43	排泄時の誘導や共有空間での移動に転倒する可能性がある	転倒することがないようにする	見守り、健康チェック、記録の確認	一年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。